

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372501169		
法人名	社会福祉法人 サン・ビジョン		
事業所名	グループホーム第2グレイスフル春日井		
所在地	愛知県春日井市牛山町3195-1		
自己評価作成日	令和3年12月24日	評価結果市町村受理日	令和4年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigovosyoCd=2372501169-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出が難しい為毎月季節感が味わえるよう季節に応じた行事を施設内で開催し、楽しみにつながるように支援している。また、日課をホーム内に掲示し、利用者様が一日の流れやスケジュールをいつでも確認できるようにしている。毎日の食事作りでは当番制を取り入れたり利用者様それぞれができること、得意としていることを行い、役割を持つことで生きがいを感じられるよう支援している。面会制限がある中で利用者様の日々の様子を写真にして新聞を作成し、各利用者様毎にコメントを添えてご家族に送付している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念の下、利用者が「自信と幸福を感じられる」生活を支援している。面会やボランティアの受け入れなどが制限される中、ボランティアの協力を得て教具・教材や作品材料、作品や成果物をやり取りしている。できていることの維持だけでなく、できるようになった達成感や充実感を、利用者が職員と共に分かち合えるように継続した支援に取り組んでいる。
居室担当を中心に利用者に関わり、日常のつづやきを拾い集めて記録し、情報共有して職員全員で利用者支援に取り組んでいる。宅配ピザを頼み、ノンアルコールビールを飲む食事レクを行うなど、外食できない中でも外食の雰囲気を出す工夫をし、利用者の要望を聞き取って出来る限り実現できるように職員全員で支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「法人理念・ミッション」をグループホーム内に掲示している。	法人理念に沿って策定する事業計画で、職員意見を聞き取ってホーム目標を設定している。「何をすべきか」を明示し、一人ひとりが認識して日々の支援に努めている。見守りが基本の自立を促す支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集いである「ぬくもりの集い」や地域の作品展にも出品していたが、今年度はコロナ禍で中止となっている。書道ボランティアの先生が毎月手本を送付していただき手本をもとに書いて作品を掲示している。	地域行事に参加したり、ホームで地域行事を開催するなど、地域との繋がりが強いホームである。中学生の職場体験や養成校からの実習生受入れ、ボランティアの活用等、地域の一員としての役割を果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の防災訓練や催し物、作品展には利用者と一緒に参加していたが、これらも全て中止となり今年度は参加できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告をはじめ事故やつづやきの対応策と実施結果を報告し、意見や要望をお聞きしている。その意見を参考に利用者様の満足度向上に努めている。	書面での運営推進会議が続いていたが、秋以降は対面で開催している。家族の参加も多く、現状報告や身体拘束の勉強会なども行い、参加者から得た意見や提案をサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず参加いただき、施設の現状を報告している。また行政からの伝達事項の確認等も行っている。介護相談員の訪問については中止されている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が必ず参加し、連携して地域の高齢者支援に取り組んでいる。居宅事業連絡協議会のグループホーム部会にも参加し、他事業所との情報交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が身体拘束をしないケアを意識し、毎月チェック表に基づき身体拘束の有無の確認や定期的な勉強会を実施している。ご家族にも現状報告や取組内容を報告している。	身体拘束が必要となった場合のマニュアルや手順が策定されている。定期的な勉強会のほか、毎月チェックリストにより不適切な支援がないか、確認・振り返りを行っている。職員への意識付けや理解浸透を図り、身体拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	すべての職員が高齢者虐待防止関連法に沿ったケアを意識し、定期的な勉強会も継続して実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	教育計画で権利擁護に関する制度について学ぶ機会を計画し、知識を深めることに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所の方針や理念をお伝えし、理解していただいた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度アンケート調査を年に2回行い、意見要望は管理者・職員に報告している。各ご家族にも結果を郵送している。	毎月発行する「牛山だより」で利用者の近況を詳細に報告し、運営推進会議や面会、電話連絡時に意見や要望の出し易い環境を作っている。出された意見や要望には、速やかな対応を心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はヒアリングの機会を定期的に設けている。また職員からの要望があった際にはそのつど、迅速にヒアリングの機会を設けている。	毎月のミーティングや日常業務の中で、職員意見を聞き取っている。個人の意見・提案であっても否定せず、職員間で実施検討し、より良い結果が得られるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートを用い、各介護職員が自分の目標を定め、向上心をもって働けるよう助言している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケア力向上のため、法人内で様々な研修が企画されているため参加することができる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内ケアマネ交流会、グループホーム部会、ハウスマネージャー会議等への参加を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学の際には左記の事項や質問に答える等、安心してサービスを受けられるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で利用者本人、家族の話を傾聴し、不安を取り除けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向をお聞きした上で対応している。面談の段階でしっかりと聞き取りを行い、そのとき必要なサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に調理をしたり、掃除洗濯、布団干し、シーツ交換など日常生活のあらゆる場面で自己のできることを尊重し、協力し合い、暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日々の様子を報告し、ご本人の希望を伝えるなど、ご家族と職員で共に支えられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出ができない現状ではあるが、馴染みの方からご家族に連絡があったりすると面会時に報告していただけることもある。	人的交流が制限されており、電話や手紙などの通信支援で関係継続に取り組んでいる。折り紙や裁縫など、趣味や生活習慣の継続支援により、ホーム内での良好な人的関係構築に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の食事準備や片付け、体操や歩行訓練など毎日全員で行い、全利用者が協力し合っている。職員は利用者様同士の関係をしっかりと把握できるよう常に見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ建屋の事業所に移られた方にはご家族とお会いした際には相談を受けたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の何気ない一言(つぶやき、よかった探し)から希望や意向の把握に努めている。介護計画はつぶやきや個人記録の中から本人の思いを把握しケアプランの立案に心がけている。	居室担当を中心に職員全員が利用者に寄り添い、食べたい物や行きたい所などの会話やつぶやきを拾っている。タブレットからカルテに入力し、職員間で情報共有して介護計画に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前の面談時だけでなく、サービス担当者会議や家族の面会の際にお話をお聞きして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なアセスメントやモニタリングだけでなく、毎日の個人記録やつぶやきを職員間で共有し、すべての職員が一人ひとりの心身状態などの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月を目途にモニタリング、サービス担当者会議を実施し、ケアプランを見直している。介護記録とケアプランをシステム上でリンクさせ、日々計画を実施できているかすべての職員がチェックしている。	6ヶ月を目途に計画作成担当者がモニタリングし、サービス担当者会議で家族や職員の声を聞き、介護計画を見直している。利用者の思いを実現させる計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカルテで利用者の状態や状況を記録している。特記として特別な出来事等記録し、職員間で情報を共有している。また介護経過支援記録にて問題点の対策の経過を追うことで解決につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はコロナ禍で外出支援は行うことができないおやつ作り、献立に利用者様の意見を取り入れたり普段の食事ではなかなか食べることができない物を食べたりすることで楽しみにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会福祉協議会が開催する地域の高齢者の集いや地区の作品展、敬老会等は中止されており参加していないが、地域のスーパーからの移動販売を利用し、買い物を楽しんでいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の中に内科と精神内科があり、かかりつけ医となっている。毎月往診していただき、日々の様子を伝え、薬の処方や他病院での精密検査等の指示を仰ぐことができる。	従来のかかりつけ医を使う利用者もいる。ホーム協力医の訪問診療が月1回あり、薬局と連携して服薬アドバイスも受けている。外来通院は家族対応を基本とし、今年度は希望者が歯科の無料診療を受診した。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ建屋の中に特養の看護師がいるため、受診の判断に迷ったときや、受診するほどではない怪我の時などに相談している。また緊急時の対応も指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはDrや病院関係者との相談を行うようにしている。しかし、長期の入院の際には一旦契約を終了し、その後の身体状況によっては当法人の施設を紹介することもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の状態変化からホームでの暮らしの継続が困難な場合は特養への移動となることをホームの方針として入居時に説明している。状態変化もこまめに情報提供し、重度化に備えている。今年度2名の退所があった。	入居時に看取りをしない方針を伝え、家族の同意を得ている。浴槽が踏げなくなる等、日常の共同生活ができない状態になったら、家族と話し合っている。併設施設への転居など、利用者の状態に合わせた最適な支援となるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時の対応についての勉強会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月グループホーム内でさまざまなシチュエーションを想定し避難訓練を行っている。訓練の際にはかならず職員とともに、避難経路の確認をしている。	地震による火災発生等の具体的な被災を想定し、毎月避難訓練を実施している。被災時にホームを避難所として利用したいとの地域の要望があり、検討を進めている。自家発電や蓄電池の設備も保有している。	自家発電や蓄電池設備で補える範囲の事前確認や、設備の操作手順なども訓練に組み入れて確認しておくことが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格やライフスタイルを尊重し、利用者本位の支援に努めている。お客様という意識を持ち、礼儀を持った言葉かけを実施している。	毎月のミーティングで権利擁護やマナー・接遇等の研修を行い、利用者のペースに合わせた支援に努めている。居室への入室、排泄・入浴解除時等は、プライバシーを確保する声掛けや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で発せられた言葉を「つぶやき」として拾い上げ、記録をして対策を実施している。また対策の効果を毎月確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間、食事、入浴など生活全般において個別の対応を希望に沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほぼ全員の利用者がご自分で毎日の洋服を選んでいる。衣替え等も個別で職員と一緒にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は当番制で係っていただき、後片付けは各自が係って分担して行えるようにしている。誕生日食や利用者のリクエストにも対応し、食べたいものや季節を感じられる食事の提供を行っている。	併設施設の管理栄養士がメニューを作成し、職員が利用者の状態に合った手作りの食事を提供している。外食ができない中、ノンアルコールビールや宅配ピザ等で、外食の雰囲気を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量などはケアカルテに実績・状態等を記録し、状況に応じて対応している。また、管理栄養士による勉強会の実施や献立についてアドバイスをいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	おおむね自立されているが必要に応じて声かけを行い、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。また毎晩、義歯の消毒を行えるように職員が声掛けや見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員の利用者がトイレを使用しており、不要な支援は控えるよう努めている。利用者の状態に応じて布パンツ、リハパン、パットの選択が適切であるよう職員の話し合いも十分行っている。	自立の利用者が多く、見守りを基本としてトイレでの排泄を支援している。夜間も、自主的にトイレに行けるよう支援している。職員間で話し合い、利用者の状態に応じた適切な支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給に努め、運動も毎日取り入れている。乳製品や繊維質など食事面での配慮も行っている。主治医に状態を報告し医療面でも支援できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴を利用者の皆様は理解している。利用者の希望に応じ、毎日の入浴や入浴日の変更を行うこともある。	隔日の入浴を基本とし、希望があれば毎日の入浴にも対応している。拒否の際は声掛けを工夫、入浴剤や季節湯も利用している。マイシャンプーの利用等、利用者が入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないと訴える利用者様に対して話を傾聴したり温かい飲み物を提供し、睡眠を促すように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書は個々のファイルに保管しており、職員全員が利用者様がどんな薬を服用しているか把握できるようにしている。体調の変化や認知症状の変化も主治医に伝える。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の手伝いを当番制で行い、張り合いのある生活ができるように努めている。職員は楽しみや気分転換が図れるようにレクリエーションなどを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ禍のため外出支援は行っていない。散歩には行っている為外の空気を感じていただけよう努めている。	体調や天候を考慮し、ホーム前の公園を散歩したり、ウッドデッキやベランダで外気に触れる機会をもっている。日常的な散歩や買い物、季節ごとの企画外出、家族との外食など、気兼ねなく外出できる時期の到来を、利用者も待ち望んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の管理は職員が行っているが移動販売があると個人の財布を持ち、買い物を楽しむことができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気軽に電話がかけられるようご本人の希望により、その都度支援している。毎年、年賀状はご本人に書いていただきご家族にお送りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の日課として共用の空間であるリビング、トイレ、廊下の掃除は利用者様と一緒にしている。壁面には日課表を掲示し、また季節が感じられる壁画を毎月作成している。	リビングや廊下、トイレ等、利用者と職員が一緒になって日課の清掃を行っている。日中はリビングで過ごす利用者も多く、季節の飾りや利用者の作品を飾り、利用者が居心地よく安心して生活できるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや各居室など、利用者は思い思いの場所できつろいでいる。仲の良い利用者同士リビングで話をする事も多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇などを持ち込まれている方もいる。ご家族にお知らせし、本人が居心地のよい空間で生活できるよう支援している。	使い慣れた家具やテレビ、仏壇等を持ち込み、配置を工夫して住み慣れた生活環境に近づけている。裁縫が趣味の利用者はミシンを持ち込み、今でも使い続けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日課表や本日の予定など利用者がいつでも見れるよう掲示し、環境を工夫している。		